

(様式2)

2021年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

### 事業実施報告書

I	スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
II	マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
III	スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
IV	日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
V	スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 静岡県 】

学校名【伊豆の国市立 大仁小学校】

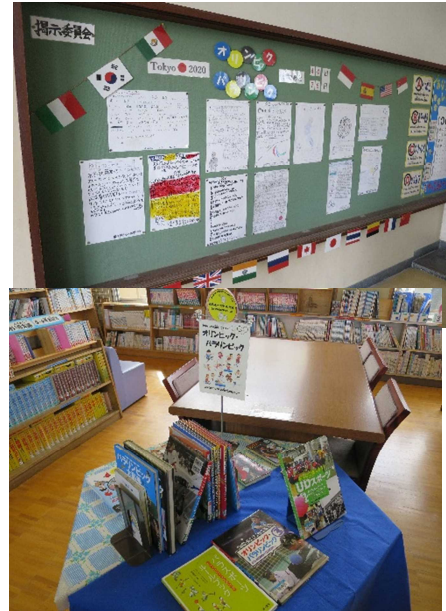
1 実践テーマ	I・II・ <b>III</b> ・IV・V（複数選択可）
2 実施対象者 (学年・人数)	1～6年生 418名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（ 総合的な学習の時間 道徳 学活 ） ② 行事名（ ） ③ その他（ 委員会活動 ） (2) 地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目標 (ねらい)	○障がい者スポーツについての知識を得たり、体験をしたりすることによって、パラリンピック大会に対する興味関心を高める。 ○パラアスリートを中心とした講師による講話や、パラスポーツに関するレクチャー体験を通じ、障がい者理解を深めることにより、共生社会の実現を自分事として考え、その実現に向けた基本的な考え方を身に付ける。
5 取組内容	①東京パラリンピックボッチャ金メダリスト杉村英孝選手による講演 伊豆の国市に隣接する伊東市出身の杉村選手を講師にお招きし、4年生を対象に授業を実施した。 4年生は事前学習として、パラスポーツやパラアスリートについて調べたり、新聞を作成したりした。また、9月には、東京パラリンピックをライブ配信で観戦した。観戦後、もう一度パラスポーツについて新聞を作成したが、その際はボッチャや杉村選手をテーマとする子が多かった。 杉村選手の授業は、計画当初は来校していただく予定であったが、感染症予防の観点からリモートによる実施となった。「ボッチャとの出会いとこれまでの軌跡、競技への思いやこれからの目



標について」「共生社会の実現に向け、子供たちに伝えたいこと」「夢を叶えるために大切なこと」などをテーマに講演をしていただいた。4年生の子供たちは、杉村選手に質問をするなど、画面越しに直接交流することができた。また、他学年も、講演を視聴することができ、学校全体で参加することができた。

②委員会活動によるオリンピック・パラリンピック掲示板の設置

学校内の環境を整備する活動を行う「環境委員会」の子供たちが、「オリンピック・パラリンピック掲示板」を設置した。大会が近づいた6月、子供たちそれぞれが興味のある種目や日本代表選手、これまでの金メダリストなどを紹介するポスターを作成し、掲示をした。



③図書室での書籍の紹介(オリンピック・パラリンピックコーナーの設置)

昨年度のオリンピック・パラリンピック教育推進事業にて購入していただいた書籍を子供たちが手に取りやすいよう、図書室に専用コーナーを設置した。

6 主な成果

① 杉村選手の講演から、子供たちは、努力することやあきらめないことの大切さを学んだ。また、「障がいのある人のことを分かってあげて、自分のことのように考えたら、みんなが笑顔になれる」「健常者が助けてあげるイメージがあったけれど、杉村さんのように世界中にエールや元気を届けている方もいる」などの声も聞かれた。4年生は、学習を始めたころ、障がいのある方のことを「苦労している」「大変だろう」と考えていた。しかし、学習を進め、杉村選手と出会うことによって、尊敬の気持ちを抱いたり、相手のことをもっと知りたいという思いを高めたりするようになった。一連の学習を通して、共生社会の実現に対する思いを育むことができた。

②ポスターを作成した環境委員会の子供たちは、活動を機にオリンピック・パラリンピックへの理解を深めることができた。「東京大会が始まったら必ず見る」との声も聞かれた。また、他の子供たちに関しても、足を止めて掲示板を見たり、カウントダウンを見ながら「あと〇〇日だね」と、友達と語り合ったりする様子が見られ、東京オリンピック・パラリンピックへの興味関心が高まっていることが感じられた。

③図書室の中央に、専用コーナーを設置したことで、子供たちが手に取りやすくなり、貸し出しも増えた。特に、東京大会が近づくと高学年の利用が多くなった。

<p>7実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<p>パラアスリートをより身近に感じるため、また、共生社会の実現を自分事としてとらえられるようにするために、隣接する市出身の杉村選手に講演を依頼した。</p>
<p>8主な課題等</p>	<p>東京大会同年、さらには、コロナ禍でもあった本年度に講演会を実施することは、計画すること自体大変困難であった。個人でアスリートに交渉する場合、直前まで日時や内容、実施方法が決まらないこともあるので、学校全体での協力や臨機応変な対応が必要だと感じた。</p>
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<p>本事業の継続を希望している。今年度リモートで講演をしてくださった杉村選手が、「機会があったら、ぜひ大仁小学校へ行って、金メダルを見せたい」との考えを子供たちに示してくださったため、杉村選手に会える日を夢見ている児童は多い。来年度も杉村選手を講師として招聘し、交流の機会を設けるために、この事業を活用させていただきたいと考えている。</p>